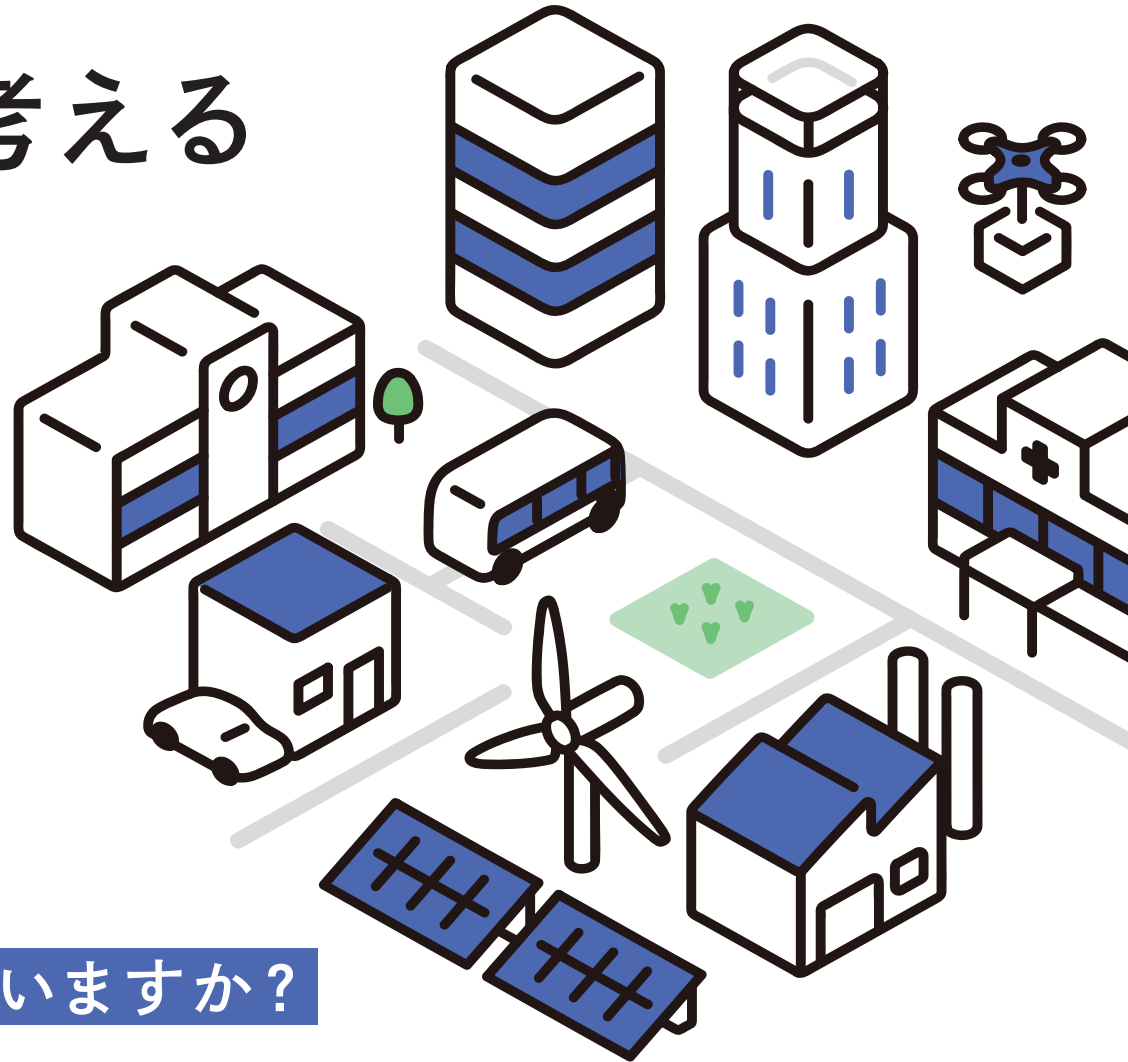


デジタル化時代の、
まちづくりを考える
ハンドブック

Handbook to
think about community
development under digital era.

あなたが見たい
まちの未来には
どんな景色が広がっていますか？



目次・はじめに

02 — 「デジタル」が浸透する地域社会

03 — Section.01

「デジタル」を活かすために、
まちの未来図を描く

04 — Section.02

描いた未来図に近づくために、
体制をととのえる

05 — Section.03

体制を活かして、
取り組みを形にする

06 — Section.04

形にした取り組みを継続させて、
新しい日常をつくる

まちの未来を

考えるということ。

このハンドブックは、地域社会とデジタルの関係について目を向けつつ、
福井に暮らすみなさんが「まちの未来」について考えるための
ヒントとなることを目的としてつくられたものです。

「まち」という言葉を聞いたとき、思い浮かべるのはどんな人の顔でしょうか？
いつも声をかけてくれるお隣さん。

家まで回覧板を届けてくれる町内会長さん。

楽しそうに公園で遊ぶ子育て家族。

行きつけのお店でアルバイトしている大学生。

すれ違うと挨拶してくれる地域の元気な子どもたち。

たくさんの人々が暮らす「まち」の中で、

皆の幸せな未来を願って行われるのが「まちづくり」です。

そこには正解があるわけではなく、

ひとつのアクションで完結するものでもありません。

たくさんの選択肢があるからこそ、

一人ひとりの顔を思い浮かべながら「まちの未来」を考えてみませんか。

「デジタル」が浸透する地域社会

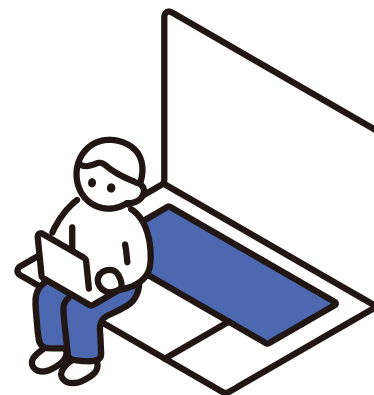
スマホやインターネットが 当たり前の社会に。

スマホへの移行はこの10年間で急速に進み、
日本における2023年時点でのスマホ比率は96.3%、70歳～79歳の
年代でもスマホ比率がおおよそ9割に及んでいます*。

私たちの暮らしの身近なところでも、行政手続きのオンライン化、
地域のイベント情報発信、住民同士のコミュニケーションなど、
スマホを活用したサービスが続々と登場しています。

それらのサービスはインターネットを通して提供されるため、スマホの
普及とともにインターネットの存在も私たちの暮らしにより欠かせ
ないものとなりました。

* モバイル社会研究所
<https://www.moba-ken.jp/project/mobile/20230410.html>



私たちの暮らしは、 どうなる？

そのようなデジタル技術・デジタルサービスの浸透により、私たち
の暮らし方や地域社会の在り方にも変化が起きようとしています。

福井市のまちづくりの現場でもデジタルの活用が検討課題として
挙げられ、すでに実践のステージに進んでいる地域も続々と。

一方で、高齢者の方を中心として、スマホやインターネットを全く
使わずに暮らしているという方も地域の中には一定数いらっしゃる
ことも事実です。デジタルの活用を視野に入れつつ、地域に暮らす
みんなにとってより多くの幸せが得られる取り組みを進めていく
ためには、どのような心構えが必要なののでしょうか？

「デジタル」を活かすために、

まちの未来図を描く

私たちの本当の 「願い」はなんだろう？

暮らしにデジタルを取り入れることは、まちの人々がより幸せで充実した生活を送るための手段のひとつではありますが、それ自体が目的ではありません。

デジタルの導入は前提ではなく、あくまでも結論。

まち全体を見渡し、言葉を交わし合ったうえで、自分たちが本当に見たいのはどんな未来なのかを明確にしていくことがまず何より大切なことです。



本当に必要な もの・ことを考えよう。

まちに暮らす一人ひとりの「願い」を集め、未来図を描き、その実現のためにデジタルが必要だと思えたら、存分に活用していきましょう。

このとき、多くの選択肢があらわれてくることになると思いますが、見たい未来の姿に沿って優先順位をつけながら、必要な取り組みを検討していくことが大切です。

まち全体の年代構成や社会サービスの普及状況によっては、世代別にアプローチの順番やタイミングを変えていくことも十分に考えられます。数年後の未来を見据え、段階的にアクションを準備していくことも大切な視点です。

描いた未来図に近づくために、

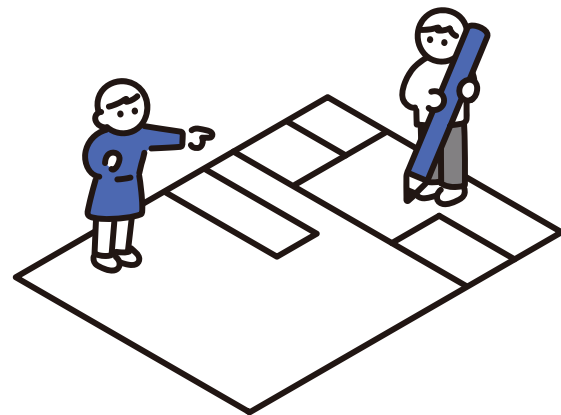
体制をととのえる

“誰がやる？”を明らかに。

描いた未来図を実現するために必要な取り組みが明確になったら、その取り組みを中心となって進める人が誰になるのかも明らかにしておきましょう。

その人自身がデジタルに精通していることよりも、「まちをなんとかしたい」という内発的な動機をもって取り組みに関わることができる人であるかどうか大切です。

とはいえ、その役目を負うこと自体が負担になりすぎてもいけません。それぞれが気持ちよく自分の役割を果たせるよう、まちの中で役割分担をしていくことも重要です。



役割分担で 進め方に工夫を。

福井市の各地区にはたくさんの組織や団体があり、それぞれにまちの中で果たす役割があります。

新しい取り組みをどの組織・団体に紐づけるかはそれぞれの地区で考えていただくことになると思いますが、大切なことはみんなでその取り組みを応援できる体制をつくることです。

例えば、中心となって取り組みを進める人や団体が伸び伸びと動ける環境を既存団体が整え、まちとして活動を応援する。

これまでまちの中で培われてきた組織・団体の信頼と、新しい取り組みの推進力をうまく噛み合わせ、まちの未来図に大きく近づけるような体制づくりを工夫してみましょう。

体制を活かして、

取り組みを形にする

新たな道を進むために必要な「決断」

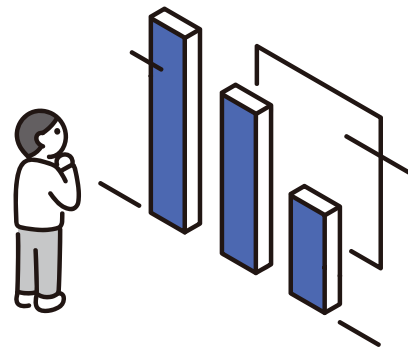
巷に溢れるさまざまなデジタルサービスは無料で利用できるものも少なくありませんが、ある程度の規模感をもって活用していく場合には費用が発生してしまうことがほとんどです。

そのため、なかなかサービスの導入に踏み切れないという地域も多いのではないのでしょうか。

そのときに思い出してほしいのは、
一番はじめに描いた「まちの未来図」です。

自分たちが見たいまちの未来を実現するためにデジタルサービスの導入がどうしても必要なのであれば、「負担」ではなく未来への「投資」として地域内での合意形成を図り、お金を使っていくことについてきちんと決断を下していきましょう。

新たな道を進もうとするときには、そのプロセスを経ることがとても重要です。



取り組みを広げるために、 伝え方にもひと工夫。

体制が整い、費用についても合意が取れたら、取り組みを形にし、実行していく段階となります。

そのときに大切なのは、その取り組みやサービスの活用を進めていった先にどんな未来が待っているかをちゃんとイメージしてもらえ
る伝え方で広げていくこと。

自分の暮らしにどのような「いいこと」が起こるのかを直感的にわかってもらえる伝え方ができれば、新しい取り組みをポジティブな気持ちで受け入れてもらうことができるはずです。

デザイナーやイラストレーターなどの力も借りながら、
まずは関わってもらう人々の気持ちから前向きにしていきましょう。

形にした取り組みを継続させて、

新しい日常をつくる

「続け方」にきちんと向き合う。

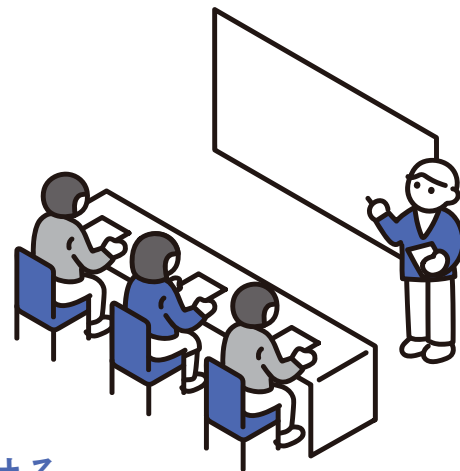
新しい取り組みを始める際には、「どうやってその取り組みを継続させていくことができるか」ということについても併せて考えていく必要があります。

資金についてはもちろん、取り組みを手伝ってくれる人材をどう確保するのか、いかに仕組み化できるのか。

それらに一つひとつ向き合いながら取り組みを細く長く続けていくことで、新しい日常の景色が生まれてくるはずです。

取り組みを続けていくのに必要なものを地域の中で揃えるのが難しければ、積極的に外部の力を借りるのもひとつの手。

補助制度のご提案や外部アドバイザーのご紹介など、「続け方」の一部については行政からもサポートできる部分があるかもしれませんので、ぜひお気軽にご相談ください。



見たい未来を 共有して進み続ける。

デジタルという切り口だからこそ、世代の違いを越えて取り組めることが必ずあります。

そして、より多くの人々を巻き込んでいく際には、やはり「まちの未来図」が重要な役割を果たすでしょう。

見たい未来をみんなが共有し、同じ言葉で語ることができれば、寄り道や遠回りがあっても同じ方向を向いて議論し合い、進んでいくことができるはずです。

このハンドブックを通して少しでもわくわくする未来を思い描けたなら、ぜひその気持ちを信頼できる誰かに伝えてみてください。

小さな思いも少しずつ積み重ねることができれば、きっとその先に素敵な「まちの未来」が広がっているはずです。

あなたが見たい まちの未来には どんな景色が広がっていますか？

デジタル化時代の、 まちづくりを考える ハンドブック

令和6年3月 発行
福井市総務部 未来づくり推進局 まち未来創造課
〒910-8511 福井県福井市大手3丁目10-1
TEL:0776-20-5230

デジタル版ハンドブックは
QRコードから



Handbook to
think about community
development under digital era.

